

# Extraterrestrials and the New Cosmology

Steven M. Greer, M.D.

Copyright 1995

## 地球外生命体と新しい宇宙観

スティーブン・M・グリア, 医師

著作権 1995年

( [CSETIのウェブサイトより](#) )

宇宙は知的生命に満ち溢れている。

それどころか、宇宙そのものが知性を持ち、生きているのである。

目に見えるものと見えないもの、理解できるものと超越的なもの、物理的なものと精神世界に属するもの、そのすべてが宇宙の一部であり、生き、覚醒し、知性を持っている。宇宙には多様な無数の生命が存在するが、本質的にただ一つのものである；それは部分を超越して一体化した、驚嘆すべき意識的な統一体（Oneness）である。

意識という一つのレベルからみれば、内も外も、此れも其れも、肉体も精神もない。あらゆる存在物の本質は、純粹で分化されていない永遠の宇宙の心（Mind）である。

それでも、認識の相対性ゆえに、我々はそこに内と外、心と肉体、善と悪、統一と分離を見る。しばしば真理は、これらの逆理を熟考することから生まれる；いずれの見方も真実であるが、それは考察者の認識レベルに依存している。我々が、宇宙と人類にあらざる進歩した生命体の存在を説明する新しい宇宙観に深く思いを巡らすとき、逆理の試練に何度も繰り返し見舞われることになる。しかし、統一体という観点から一心に宇宙を眺めるならば、宇宙は我々にその神秘の一部を差し出すかもしれない。

宇宙観の混乱。この言葉を最もよく言い表すのが、20世紀の人類が進歩した地球外生命体の存在に直面することにより生じている状況である。これらの存在者は、人類にあらざるのみならず、本質的に我々には不可解な技術を所有しているからである。数千年（そしておそらくは数百万年）人類よりも進歩したいかなる文明も、当然ながら我々を困惑させる現れ方をするだろう。恒星間旅行の能力を持つ人々が、交信にマイクロ波信号を用いたり、推進に化石燃料や核燃料を利用したりすることは、ありそうもないことである。実に、現代の地球の科学者たちが今高く掲げている宇宙の法則そのものが、恒星間旅行の能力を持つ文明が理解し応用しているその、遠い昔の影にすぎないものである可能性が高い。

200年前の人間にとり、ホログラムやレーザーでさえ魔法のように映ったであろうよう

に、恒星間旅行文明の技術および文化の様相は、人類の大部分にとり魔法のように見えることだろう。これらの文明と彼らの技術を理解し始めるため、そして最も重要なことだが、現実世界の性質を彼らから学ぶために、我々には科学と宇宙観における大いなる謙虚さと忍耐とが必要になる。

さらにまた、一般には宇宙観の理解のため、とりわけ進歩した地球外の人々の現れ方を理解するために、いわゆる‘物理的宇宙 (physical universe)’ と共存する非線形的 (non-linear) 宇宙、非局在的 (non-local) 宇宙、超越的 (transcendental) 宇宙の概念が考慮されなければならない。後述するように、人類も地球外生命体も共に、物理的で定量化できるだけの実体ではなく、彼らも我々も、物理的宇宙に束縛されない領域に存在しているからである。

すなわち、我々も地球外起源の他の生物学的生命体も、心と肉体の両方を持っている；我々はどちらも、物理的であると同時に精神的、線形的であると同時に非局在的、時空に束縛されていると同時に超越的であるのが真実の姿である。そして科学と技術により、一体化した心と物理的装置との間に交信が行なわれる領域が発見されたならば、何が起きるか？ このような技術の出現は、現代の物理学者と哲学者または神学者の双方を、真に困惑させるものとなるだろう。宇宙の理解におけるこのような大飛躍は、別々の領域と考えられていた科学と精神世界、心と物質、肉体と精神を、密接に関係させることになると思われるからである。

さて、この困惑すべき状況をさらに混乱させるのが、非物理的な知性体の存在である。物理的肉体を持たずとも知性を持ち、知覚を持ち、生物学的な人類および地球外生命体と一定の相互作用をする力を持つもの。大衆文化においては、そのような存在者を想像の産物 (または原始信仰に属するもの) として拒絶するか、そうでなければ、それが人類、地球外生命体、あるいは本当の非生物学的存在のどれであろうと、すべてを一括りにし、区別のない‘実体 (entities)’ という、文字どおりの寄せ集めにしてしまう傾向がある。

明らかなことは、知性を持つ生命体の多様性について熟考するのに伴い、深刻な宇宙観の混乱を生じる恐れが急激に増大するということである。我々を取り囲む宇宙を理解しようとするならば、新しい宇宙観が必要である。

民間 UFO 団体においては、この現実時空を動き回る物体と生命体の性質について、大きな混乱がある。一方で我々は、疑う余地のない物理的な現象を目にする。墜落した宇宙機、レーダー反射、検証された写真とビデオテープ、着陸事件に由来する金属片などである。‘肉と血’を持つ地球外生命体がそれであることは、言うまでもない。また他方では、これらの同じ物体と存在者たちについて、非線形的な現れ方をしたとする多くの報告がある：テレパシーによる交信、明晰夢、心と物質の相互作用、遠隔視、パイロケーション、空中浮揚、等々。地球外生命体に関わる現象を客観的に学ぶ学徒なら、誰もこれらの現れ方を無視することはできない；その例はきわめて多く、広範囲に及ぶ。我々に困惑と混乱

があるからといって、それが現象のこの側面を頭から退ける言い訳にはならない。とはいえ、これらの現れ方を我々が受け入れるためには、‘現実 (reality)’ についての理解をすべて再考することが真に求められる。そして人間は変化を好まないものであり、宇宙観の全面的な見直しを迫る証拠に進んで向き合おうとしない。

宇宙観の混乱が続いてきた結果、現象についての様々な主張が存在することになった。現象の一部は進歩した地球外文明の顕現であり、また一部は、ある意味で地球外生命体に類似した現れ方をする能力を持つ、非生物学的な‘精神的存在者 (spiritual beings)’ の顕現である。すなわち、地球外文明の進歩した技術および能力の幾つか、とりわけ心と思考に接続しているそれは、いわゆる‘アストラル体存在者 (astral beings)’ または精神的存在者にきわめてよく似た現れ方をするということである。実際に、これらの現れ方は、顕現している存在者たちが同一のものだと多くの人々に言わせるほど、互いによく似ていることがある。その見方は正しくない。輝くものすべてが金ならずであり、現れ方の類似性は起源の同一性を意味しない。

さてまた、このすべてに加えて、ある種のアデプト（達人）が地球外生命体および‘アストラル体’ 存在者の両方にきわめてよく似た現れ方をする能力を持つ、という事実がある。ET 技術の特異な現れ方を列挙したのを覚えているだろうか？ テレパシー、予知、空中浮揚、念動力、バイロケーション、心-物質および心-肉体の相互作用... これらは、時々（そして多くの人々が考えるよりももっと頻繁に！）人間の世界に見られてきた諸能力なのである。

最後に、もう一つ付け加えよう： 技術と生来の精神的能力を発達させ、地球外文明および非生物学的な精神的存在者の能力に近づいている、闇の軍および準軍事的な人間のグループが存在する。

宇宙は広大で、複雑な場所である。しかし、それを理解するためにあまり難しく考える必要はない。最初に簡単な原理と概念をいくつか用いることにより、宇宙の理解は前進する。この課題は、古代スーフィー（\*イスラム）の格言を思い起こさせる：“知識はただ一つの点である。しかし、愚かなる者がその点を増やした”！

## 新しい宇宙観の中心原理

線形的、相対的な現実と非局在的、非線形的現実と共に、宇宙の実相 (Reality) として同時に存在する。それらを知覚し理解することは、完全に考察者の意識レベルに依存している。物理的な物質でさえ、宇宙の性質の側面である非局在性、超越性、および意識を宿している。

意識と知性を持つ生物学的生命体は、それが地球上のものであれ、またはどこか他の惑星起源のものであれ、物理的現実と精神的現実とを持っている； そのすべてが物理的に、

また精神的に、様々な現れ方をする可能性を持っている。純粹な心、または制限されない意識は、そのような生命体のすべてが本来的に持っているものであり、あらゆる生命に見られる究極最高の共通特質である；制限されない意識は本質的に非局在的であり、時間にも空間にも束縛されないが、現実時空の中に顕現することができる。

生物学的肉体を持たない存在者（いわゆるアストラル体または精神的存在者）もまた、意識と知性を持つ実体である。またそれ自身、生物学的および非生物学的な他の意識的生命体と相互作用をすることができる。稀に、それらは物理的に顕現することさえできる。もう一度繰り返すと、これらの存在者たちを他の生命体と連結している最高の共通特質は、制限されない意識 (unbounded consciousness)、または非局在的な心 (non-local mind) である。

宇宙は、線形的側面と非線形的または超越的側面の両方で構成されている。それらは、一見矛盾するように思えるが、時空と非時空のあらゆる点において同時に存在している。この観点からすると、時空のあらゆる点は、非局在性の性質により、時空のあらゆる他の点にも存在している。

神 (God)、または全知全能の存在 (Universal, All-Knowing Being) の概念は、宇宙における膨大な生命の多様性を考えるとき、強められることはあっても弱められることはない。神の栄光は、調和宇宙 (cosmos) における生命の無限の多様性と限界のない活動領域を認識することにより、さらに増す。

それでは、宇宙の知的生命は、実際にどのような現れ方をするのか？ 上に述べた概念を念頭に置いて、生命のこの多様性と、それらが我々の様々な内的感覚と外的感覚にどのようにしてその姿を現すのか、これから概観することにしよう。

## 知的生命体の分類

### 生物学的生命体：種類

人類 - 知性を持ち、本来的に生物学的肉体を持つ、地球に棲む高等な生命体。

地球外生命体 - 知性を持ち、本来的に生物学的肉体を持つ、地球以外の様々な惑星に棲む高等な生命体。

惑星生命体 - 人間の姿を持たず、惑星全体を肉体とする知的存在：例を挙げればガイアとしての地球がある。生物がそうであるように、惑星地球全体が知性を持ち、覚醒している。他の惑星、さらに太陽系、銀河系も同様に、それ全体として独立した意識的有機体と考えられる。

その他の生物学的生命体 - 地球のイルカや鯨目など。これらは人間ではないが、高度な知性を持つと考えられる；理論的な観点から、他の惑星にも人間の姿を持たない、これらの知性を持つ生物学的生命体の系統があると推測される。

## 生物学的生命体： 顕現／姿の現し方

(ここに列挙するのは、生物学的な知的生命体がどのような姿の現し方をすると考えられるのか、または内的感覚と外的感覚の両方でどのように知覚され得るのかの説明である)

- 物理的な顕現 (Physically)。物理的な肉体を持って現れる。宇宙機を伴うことも伴わないこともある。
- 技術を用いた顕現 (Technologically)。ラジオ、テレビ、および心／思考に接続した技術を含む、進歩したシステムを用いて現れる (先進的 ET 技術)。
- 精神的な顕現 (Mentally)。テレパシー、明晰夢、または直接心に接続する他の経路により現れる。
- アストラル体投影 (星気体投影) による顕現 (Astral Body Projection)。人類、ET、または他の生物学的生命体はその繊細な、非生物学的構成要素を現す；これは別の生物学的生命体により、覚醒時または眠った夢の状態で見られる。
- コーザル体または思考体への顕現 (Causal or Thought Body Presentation)。最も繊細な自己の側面、思考の本質 '体' が別の生物学的生命体を見られる。この見られるは生物学的な肉体またはアストラル体の投影によらない。
- 純粋な心／統一状態にある心への顕現 (Pure Mind/One Mind)。究極の統一状態。いかなる意識的生命体も純粋な、制限されない心として、その存在が見られる。当然ながら、あらゆる意識的生命体は本質的に非局在的な、純粋な心であるために、そのようなものとして見られる。

## 生物学的生命体の知覚経験と能力の種類

- 物理的知覚 - 視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚
- 物理的能力 - 移動／動作、その他、技術による増強を含む
- 精神的能力 (従来の意味の) - 思考、観念作用、創造性、可視化、記憶、感覚的知覚、認識、その他

非局在的な精神的能力 (従来の意味ではない) - これには認識、心と物質の非局在的側面の利用が含まれる：

- テレパシー (Telepathy) - 知性を持った一存在者から別の存在者へ思考を送信および／または受信する能力。
- 予知 (Precognition) - 心の繊細な、非局在的側面は、時空に束縛も制限もされないために、認識を認識することのできる知性を持つ高等な生命体は、非局在的な心を経由して、未来に起こり得る出来事を知ることができる；そのような予知の正確さは、

どれも 100 パーセント未満であることに留意されたい。なぜなら、自由意思に影響される '現在' の出来事が、未来に起きる出来事の確率を変えるからである。

- 遡知 (Postcognition ; 過去認知) - 知覚者が直接経験しなかった遠い過去の出来事を、非局在的な心を経由して知覚する能力。非局在的な心は、時空の線形的連続体の過去時点にも未来時点にもアクセスすることができるために、この能力によって過去の出来事を見るのに、遡れる時間に限界はない。
- 遠隔視 (Remote Viewing, Remote Sensing) - ここでは、現時刻、過去、未来のいずれかにかかわらず、非局在的な制限されない心が、空間的に離れた場所の出来事を見る能力と定義する。現時刻の遠隔視においては、非局在的な心の能力により、遠隔地の出来事をきわめて細部まで知覚することができる。
- 夢幻状態の能力 (Dream State Abilities) - 夢幻状態において、知性を持つ高等な生命体は、予知 (予知夢)、遡知 (遡知夢)、遠隔視、明晰夢 (夢の中で意識があり、覚醒し、自己を認識し、夢の中の出来事に作用を及ぼす可能性を持つものと定義する) を経験することがある。
- セレスティアル知覚 (Celestial Perception) - 物理的な生物学的感覚および高次の意識的感覚の両方を含む知覚で、物理的現実および非物理的現実の両方について、その最も繊細で精妙な側面を知覚することが可能になる ; 'オーラ' の知覚はその簡単な一例である。
- 直観的な知 (Intuitive Knowing) - 従来の意味の外面的な知る方法を用いずに、非局在的な心および内的な知と呼ばれる経路により、物事についての詳細で信頼性の高い情報および洞察を得る能力。たとえば、ある生命体が植物を知覚し、その特定の薬学的効用を直観的に知ることが可能である。
- 治癒能力 (従来の意味ではない) (Non-traditional Healing Abilities) - ある生命体が、非物理的かつ非技術的な方法により、遠隔的か直接的かを問わず、自己または別の生命体を治癒する能力を示すことがある。これらの能力と種類は多様であり、その中に心/肉体の相互作用、繊細なアストラル体/肉体の相互作用などを含めることができる。
- 空中浮揚 (Levitation) (技術によらない) - 心と肉体または物質物体との間の繊細な相互作用により、重力の影響を消滅させる能力。心も物質も、相互に接続することのできる繊細な非局在的側面を持つために、空中浮揚などの現象を起こすことが可能になる。
- 念動力 (Telekinesis) - 心の繊細で非局在的な側面と物体が持つ同等の側面間の接続を経由して、観測可能な空間の中で物体を移動させる能力。たとえば、従来の意味の物理的な作用または技術の力を用いずに、ある生命体が精神の力で椅子を持ち上げ、部屋の中を移動させることが可能である。
- 遠隔移動 (Teleportation) - 非局在的な心と物質の非局在的側面を経由して、物体を相当な距離を隔てた地点に移動させる、またはその地点に出現させる能力。この能力は、空間の線形的側面を無意味にする。たとえば、ある生命体がこの能力を使って、1 個の宝石を一つの大陸から別の大陸に遠隔移動させることが可能である。
- 変成 (Transmutation) (技術によらない) - 物質の非局在的側面と心との間の繊細な

接続を利用して、ある物質的物体を別の元素または物体に変換する能力。同じことは技術を利用して可能であることに留意されたい。

- バイロケーション (Bi-location ; 複所在, 同時両所存在) - 時空連続体の中で、肉体または物体を、2カ所またはそれ以上の地点に同時に出現させる能力。たとえば、ある生命体が同時刻に、2カ所またはそれ以上の場所に出現することが可能である。関連する‘複時在 (bi-timing)’は、空間の同一地点で複数の時刻に出現する能力である (いわゆるタイムトラベル)。
- 物質化／非物質化 (Materialization/Dematerialization) (技術によらない) - 生命体が持つ能力で、心／物質の接続を利用して物質的物体を出現させたり消滅させたりする能力。同じことは技術を利用して可能であることに留意されたい。
- 幽体離脱／アストラル体投影 (星気体投影) (Out-of-Body Experience/Astral Projection) - 繊細なアストラル体またはライトボディ (light body) を、生物学的な肉体を離脱した時空の一点に自在に投影する能力。
- 近似死体験 (Near-Death Experience) - 肉体の病気または損傷により、アストラル体が一時的に物理的な生物学的肉体を離脱する経験。調和宇宙の非物質的で繊細な側面をかいま見る経験の中で、いわゆる‘来世’を知覚することがある (通常はアストラル体の領域で起きるが、高度な知覚がコーザル体または純粋な思考体の領域で起きる可能性がある)。

その他の多くの能力...

上記の諸能力は、人類と地球外生命体の両方が持つ、生得的な可能性であることに留意されたい。ある文化の中で、これらの能力が実際に発現しているかどうかは、文化の発達程度とその文化の中心関心が何であるかに依存する。ここでの重要な点は、意識的であり、覚醒し、知性を持つ生命体なら、人間であれ他の何であれ、上記の諸能力のすべてを発達させ、経験することが潜在的に可能だということである。

また、次のことを覚えておくことは重要である。すなわち、これらの能力のそれぞれが、生得的な精神的能力を技術的に増強することにより、あるいは完全に技術の進歩のみにより、達成可能だということである。進歩した地球外生命体の技術の多くが、我々には‘魔法’のように見えるが、その理由は、彼らが心と物質の両方の諸側面を利用しているからである。それは、現在の人類の科学が定量的に理解し得る範囲を超えている。皮肉なことに、この理由により、非局在的な心と物質の神秘の中に暮らすある種のいわゆる未開の人々が、欧米の科学者たちよりも正しく ET の技術を理解することがある。

## 非生物学的な知的生命体

宇宙の複雑さをさらに増すものに、ここでその性質を述べる、完全に非線形的かつ非物質的な、調和宇宙の諸領域、諸次元、諸側面 (それを何と呼んでもよいが) の存在がある。調和宇宙のこの‘部分’は、実際には物理的な物質宇宙さえ及ばないほど、はるかに広大

で複雑である。だから、少なくとも最初にその基本的な性質と現れ方の評価を試みることなしには、どのような宇宙観も完全にはなり得ない。調和宇宙のこの側面は、その物理的側面と（そして生物学的な肉体を持つ人類および地球外生命体とも）相互作用をすることができる。それゆえに、我々にとり重要なことは、その側面を考察し、それが上に述べた人類、ET、その他の生物学的生命体が示す多様な現れ方および能力にどのように似ているのか、または異なっているのかを明らかにすることである。

## 非生物学的な知的生命体の種類

アストラル体または光の存在者 (Astral or Light Beings)

- 地球起源のもの（以前に生物学的な人間であった死者）
- 地球以外に起源を持つもの（生物学的な地球外生命体の死者、またはコーザル体もしくはアストラル体の領域に起源を持つもののいずれか）

コーザル体または思考体の存在者 (Causal or Thought Beings)（主に‘思考体’として存在しているもの）

- 地球起源のもの（生物学的な人間の死者）
- 地球以外に起源を持つもの（以前に生物学的な地球外生命体であった死者、またはコーザル体もしくはアストラル体の領域に起源を持つもの）

ここで留意すべきことは、非生物学的な存在者は、それが以前に人類であったか、ETであったか、それとも非生物学的起源を持つものであるかを問わず、生物学的生命体に対して、覚醒状態、夢の状態、瞑想状態などを含む、多種多様な条件下で顕現することができるということである。文化とその発達程度により、また非物質的存在者を容認する程度に応じて、これらの実体は幾つかの名前で知られており、また様々な役割を果たすものと見なされている。その一部をここに列挙する：

- ゴーストまたは精霊 (Ghosts or spirits)
- 指導霊または天使 (Spirit guides or angels)
- 大天使 (Archangels)
- 悟りに達した天界の存在者 (Ascended enlightened beings) (神の化身(Avatars), キリストやクリシュナなどの預言者)
- 惑星の自然霊 (Planetary Nature Spirits) (ヴェーダの伝統ではデーヴァス(Devas)として知られる)
- 動物霊 (Animal Spirits)
- その他、きわめて多数

## 非生物学的生命体の知覚経験と能力の種類

基本的に、生物学的生命体の項で列挙したすべての経験および能力、またおそらくそれ以上のことが、これらの非生物学的生命体に関連している。ただし、彼らは主に非物質的

領域に存在しているために、物質の世界と接続するのはそれほど頻繁ではない。しかし、彼らは調和宇宙の物質的側面と相互作用をすることができるし、物質化やポルターガイスト（騒霊現象）など、様々な特異現象により証明されているように、時々そうしている。確かに、人間の心と精霊の間に、また同様に ET の心と精霊の間にも、相互作用が起きる原因は数多く存在する。

人間が経験することのできる多くの可能性を仔細に検討するときには、調和宇宙の多様性をその中に包含する、広大な宇宙観を持つことが重要である。そうしないと、我々は地球外技術の特異な現れと、アストラル体またはコーザル体の領域にある調和宇宙からの顕現を識別できなくなるだろう。

## リンゴ、オレンジ、星くず

これまで述べたことは、包括的宇宙観の諸問題を網羅したものではまったくない；そのような仕事は、数冊ではないにせよ、1冊の本にはなるだろう。しかし、この概説は、ここでの主要な関心事 - 地球外生命体の存在 - についてのきわめて重要な問題に、我々の目を向けさせる。宇宙は、知性を持つ生物学的存在者と知性を持つ非生物学的存在者の両方で満ちており、そこでは著しく異なるタイプの存在者間に、現象の重なりが存在する。そのことが、今地球を訪れている地球外生命体の人々を理解しようとする誰に対しても、一つの特別な課題を提起する。

たとえば、ある非生物学的なアストラル体存在者は、一部の進歩した ET 生命体に類似した現れ方をする可能性がある。しかし、その ET 生命体は、外見上（あるいは本質的に）非生物学的実体に見える、きわめて進歩した技術を用いているかもしれない。人物のホログラム投影を 17 世紀の人間ならゴーストと解釈しなかつただろうか？ また、衛星実況によるテレビ会議はどうだろうか？ ついでに言えば、ただのフラッシュライトはどうか？ 間違いなく魔法だっただろう！

他にもあるがこの理由により、宇宙観の危機が数十年間にわたり ET/UFO 問題を支配してきた。よく聞いてほしい、この危機は、ある闇のグループの意図的な偽情報工作および心理戦計画により増長されてきた（これについては後でさらに述べる）。その結果は、リンゴ、オレンジ、星くずの混合物であり、それらはすべて一つの名前で呼ばれる。

おそらくこれは、理解のできない新しい現象に遭遇して動揺する世界がもたらす、予測可能かつ当然の結果である。これは我々に、*'The Gods Must Be Crazy (\*邦題：コイサンマン)* という映画を思い起こさせる。その中では、1機の小さな飛行機がアフリカの辺鄙な未開地上空を飛び、乗客の一人が窓からコークの瓶を落とす。この瓶はそれを見つけた先住民たちにより、きわめて不可解で解釈の定まらぬ、超自然的な意味と力を持つ物体になる。この映画はコメディであるが、その中には、重要な関連するメッセージが含まれている：今我々は、コークの瓶を見つけた人々と同じ振る舞いをしていないか？

たとえば、ET/UFO 現象の目撃者たちは、地球外宇宙機をまったくの非物理的、非物質的なものと結論する可能性がないだろうか？ なぜなら、時々それらはただ‘消える’からである。魔法？ 次元移動？ それともその ET 技術は、途方もない一瞬の加速により、宇宙機を空中静止の状態から時速数千マイルにまで（あるいは超光速にまで）移行させただけなのか？ 人間の視覚神経は、この大きさの加速度を追跡することは不可能である。だから、その物体はただ‘消えた’ように見えるのである。

実に、この宇宙観の混乱は、三つの主要な要素が原因となっている。その第一は、すでに述べたように、進歩した地球外技術が持つ固有の性質である。それは、我々が想像できるどのようなものよりも進歩しているために、単なる超技術（super technology）というよりは、むしろ‘超自然(supernatural)’に見える。地球の科学界が考え始めることさえしていない、宇宙の法則がある。それは理解されているのみならず、ET 文明により進歩した技術の中で応用されているのである。この理由により（また、古き良き科学の傲慢さゆえに）、厳格な科学者たちでさえ、地球外生命体に関わる現象のある側面を頭から退ける傾向がある。そうでなければ、それを‘非現実的’、超自然的、迷信的な類のものに見なしてしまう。

意識の力を借りた技術（consciousness-assisted technology；CAT）の発達について考えてほしい。たとえば、コンピューターにデータを入力するのに、キー操作ではなく、ただ命令を思考する方法が考えられる。コンピューターは予めプログラム化されており、人々の思考の特徴を認識し解釈する。証人の何人かは、地球外生命体が宇宙機の中で、まさに同じことをしたのを見ている。あり得ない？ 魔法？ たわごと？ 気を付けた方がよい！ ネバダ州立大学ラスベガス校のディーン・ラディンという、他ならぬ我々の科学者が、‘サイキック・スイッチ（psychic switch）’と呼ぶものに取り組んでいるが、これはまさしく今述べたことである。進歩した地球外生命体は、この道をどれほど遠くまで行っているだろうか？

CAT の裏返しは、技術の力を借りた意識（technology-assisted consciousness；TAC）である。ここでは、特殊な機械装置が、心、思考、意識などの機能を支援する。その基本例が、モンロー研究所のヘミシンク音響技術（Hemi-Sync tones）であり、リラクゼーションおよび意識拡張の深化を助け、最終的には活力と能力を高めることを意図している。現代の科学者たちには異様に思えるかもしれないが、さらに進んだ応用が、ある種の技術を利用してお互い同士および人類とテレパシー交信する、ET の能力である。このことを物語る実に数百の事件が、世界中の様々な階層の信用できる人々から報告されている。

地球外文明においては、光速を超える速さで交信する能力が、基幹的な技術になる。ムーディー・ブルース（\*ロック・バンド）から引用しよう。“旅をする一番よい方法は考えること”なぜか？ それは瞬間的だからである。だから、恒星間旅行をする人々が、電波を使わずに思考交信（thought communication）を発達させていたとしても、まったく驚

くにはあたらぬ。証人が次のように考えながら宇宙機を見ていた、多数の事件がある。“あー、あの物体がこちらに戻ってこないかな。そうすればもっとよく見えるのに！”すると突然、その宇宙機が方向転換をし、その目撃者の真上に飛来する。このような双方向的意見交換の確度の高さが示唆するものは、これらの宇宙機およびその搭乗者たちが、自身の思考と他の生命体のそれとを実際に接続する技術を持っているだろうということである。

TAC（技術の力を借りた意識）はまた、地球外生命体により、遠隔移動、念動力、遠隔視、およびさらに高度な意識状態の中で利用されている可能性もある。一旦、心と物質の間および心と時空の間の結びつきが明確に理解されるや、その応用の可能性はほとんど無限であり、想像もつかない。

この宇宙観の混乱という議論の中で、進歩した地球外技術がなぜ重要なのか、その理由は今や明白であるはずだ。地球外文明のきわめて進歩した技術は、別のいわゆる超常現象に類似しているか、または同一に見えるということである。これらの違いを認識するためには、洞察、知識、忍耐、そして何よりも経験が必要である。

たとえば、‘典型的な宇宙人による誘拐経験’を持ち、逆行催眠を受ける人々は、潜在意識の記憶を詳細に語る。それは、宇宙人による誘拐の記憶とされるものを引き出そうとする、強い偏見を持った催眠術師をとりわけ喜ばず。つまり - それは現実か、それともメモレックスか？

人間の心を扱うときには、大いに注意しなければならない。そうしないと我々は、非生物学的な知的生命体、人類、地球外生命体など、重なり合う明瞭な諸領域を含む、新しい宇宙観のその側面を混乱させることになる。

覚醒時、夢の中、または瞑想状態で、ほとんどホログラムとなった精霊またはアストラル体存在者を見た人間に対して、ある UFO 研究家が、それは地球外生命体の訪問を受けていたのだと間違った判断をしてしまうことがある。しかし待つてほしい。上にその概要を述べたより包括的な宇宙観は、我々に次のように考える余地を与える：それは指導霊か、天使か、別の現存する人間がベッドルームにそのアストラル体を投影したのか、死去した親類か、入眠時幻覚か、‘それとも’地球外生命体が技術的または精神的に、部屋にその姿を投影したのか。

重要な点はこれである：もし多様な可能性について知りもせず受け入れもしなければ、その現象を間違って解釈する可能性はきわめて高い。同様に、多くの人々は無数の超常現象を経験するが、それらはただ一つの現象と見なされることになる。その結果は、リンゴ、オレンジ、星くずの混合物である。真に包括的な宇宙観を導入し理解することは、我々がこの混乱を回避するための大きな助けになるだろう。しかしそれでも、一つの現象が別の現象を装う、深い重なりのある諸領域があるために、明確な識別が可能になるまでには、多大な注意力と、熟慮を伴った経験の繰り返しが必要になる。そうでなければ、我々はいかに

して、精神的存在者と地球外技術による進歩した心／物質の相互作用を区別することになるのか？ さらに言えば、人間の技術および体験からそれを区別するのか？

そのことは、宇宙観の混乱をもたらす第三の原因へと我々を向かわせる：地球外生命体の問題について社会を混乱させ、欺き、惑わすことを意図した、人間による闇の諸計画。次のことを覚えておかなければならない。すなわち、地球外技術を逆行分析（back-engineer）する闇の人間による企ては、45年以上も続いており、かなりの進歩を遂げているということである。加えて、軍および情報諸機関の内部にいるある種の闇の下部組織が、きわめて侵略的、特定の、実戦的な心理電子技術に取り組んできている。これらの技術は、ほとんどの人々が想像し得る以上にはるかに進んでいる。偽情報工作を目的とした、意図的に地球外技術を装う能力が実際に存在するのである。

我々は、信用できる軍関係者から、‘非致死性防衛（non-lethal defense）’および関連分野について説明を受けたことがある。彼らは、実戦に使える心理電子技術がすでに存在していることを我々に確証した。それは個人またはグループを標的にし、遠くから目標を操作して、彼らが彼らだけの神（God）と直接会話をするように仕向けることが可能である。その結果、彼らはそれが現実だと信じ、嘘発見器のテストを通過する。

## 結 論

これは警鐘である。すべての特異な経験を額面どおりに解釈する単純なアプローチは、非科学的であるだけでなく、非常に危険である。UFO/ETに関連しているように思える個人的および集団的経験を誘発することのできる技術が、確実に存在する。しかし実際には、それはまさしく人間によるものである。過去に行なわれたプルトニウム人体実験や一般市民に向けた細菌戦実験と同様に、これらの‘実験’は、この30年ないし40年間に開発され完成されてきた、現実の、闇の資金による活動である。きわめて迫真的な‘誘拐’事件を誘発することのできる、完全に人間の手になる電子技術および移植（インプラント）技術が存在している。軍事施設周辺で誘拐経験が多発すること、マークのない、黒い、電子装置満載のヘリコプターが、いわゆる誘拐被害者たちの住居近くで見られることは、偶然ではない。

大衆を惑わし、欺き、そしてなによりも地球外生命体の主題について偽情報を与えることを意図したこれらの特殊プロジェクトにより、一般市民は誤り導かれ、民間 UFO 団体は完全な被害者になってきた。地球外生命体の存在に貼り付けられた‘Body Snatchers（人体乗っ取り）’の観念は、‘... 我々が一丸となって対抗し闘わなければならないエイリアンの脅威’が存在することを大衆に納得させるための、手の込んだ計画により押し付けられている。

騙されてはいけない。地球上の生命と、新興しつつある我々の地球外文明との関係は、この現実到我々の目が開かれているかどうかにかかっている。

宇宙観の混乱と闇の人間による活動の関連性を、過小評価してはならない。地球外生命体の主題に関する人類の認識は、偽物の金の山に本当の金を隠しておきたい輩によって、巧みに操作され、ハーブを奏でるように弄ばれてきた。地球外生命体に起因するよう見え、感じられ、思われる出来事は、実際には他ならぬ人間に起因する偽装の一部であるかもしれない。だから、もし我々が、少なくとも我々の宇宙観のリストにある闇の偽情報計画の役割を考えることをしないならば、これらの出来事の多くを見誤り、誤解することになってしまうだろう。

宇宙観の混乱を増長させる人間側の原因は、闇の活動に限定されたものではない。誤解、幻覚、妄想、なりたがり、虚偽記憶症候群、でっち上げ、科学の傲慢さ、一般的な人間の利己主義といった、一連の通常要因がある。これらのすべてが、緊急に治療を必要とする宇宙観の集団的消化不良の原因になっている。そして、事実を認識することは、治療への第一歩である。地球外文明。人類。非生物学的生命体。宇宙は複雑で、多様で、魅惑的な場所である。それとも‘非-場所 (Non-Place)’ だということか？ 最終的には、教育、そして何よりも経験が、この旅における我々の導き手となるだろう。それというのも、もし我々がこの広大な大海に船出しようとするならば、我々には方向舵、コンパス、そして最初は海岸線に沿った少しばかりの旅が必要だからである。

我々は共に合流し、知識と経験を持ち寄らなければならない。そして勇気と強い意志を持って、まずは海岸線に沿って船出しなければならない。それから海岸線を離れていき、次には精神世界と宇宙空間の、広大で無限の大海へと向かわなければならない。我々がいるところは、時の終わりでも歴史の終わりでもなく、むしろ無限の可能性への出発点だからである。そこには、人類が共に夢見るすべてが実現する世界がある。

(訳： 廣瀬 保雄)